

夏休みだよ全員集合☆ 大公開!!おおさか生きもの多様性-宿題はこれでキマリ!!- イベントレポート

大阪市立自然史博物館で8月11日(金・祝)と12日(土)に開催されたこの連続講座は、生きものやその生息環境を大切にすることを育むことを目的とし、6人の専門家から大阪府近郊の生物多様性の現状やあまり誰にも知られていない生きものの神秘についてお話しいただきました。

また、それぞれ取り組まれている自然環境の保全活動や調査などの情報を紹介することにより、自身が住んでいる地元の郷土学習を含めた生物多様性を学ぶことができ、活動にも参加して貰えるよう促すという狙いもありました。

さて、トップバッター**1日目**の**第1部**の講演はカマキリ博士こと、昆虫科学研究センター ISRC 渡部宏さんによる、「カマキリ行動学教室」です。参加者は31名でした。カマキリ博士の講演はリピーターが多く、毎回参加してくれている子どもたちもいて、講演中にカマキリ博士の配る270種類のカードをすべて持っているカマキリ博士はお話されました。



まずはカマキリとの触れあいです。カマキリ博士は講演開始前から会場内を回り、多くの参加者の手の上に4センチ程度のカマキリを乗せて回りました。カマキリ博士がこぶしを突き出すと飛び乗るカマキリを見て、参加者からは喚声が上がりました。



会場参加型のカマキリ博士の講演では、質問のたびに沢山手が挙がります。例えば「カマキリの敵は？」の問いかけに、「トカゲ！」「トリ！」「ハチ！」「ヘビ！」「カマキリ！」「カナヘビ！」「ネコ！」「ニンゲン！」「キリギリス！」「クモ！」という感じです。



そして、生きものでも人間の世界でも、赤・黒・黄色は警告色であるというお話や、カマキリの交尾についてのお話がありました。メスに食べられないようにうまく交尾させる方法がスクリーンに映し出されると、その興味深い映像に参加者は釘付けになっていました。

またカマキリ博士は、ステージ上や前に出て来てもらって発表する子どもたちと、同じ目線で話すためにひざをついてお話されていて、擦り切れて破れたズボンの右膝を見せてくれました。



会場を巻き込んでの盛り上がりを見せた講演は少し時間をオーバーしましたが、参加者全員真剣に聞き入っていました。最後は「マンティス！（カマキリの英名）」ポーズで締めくくり、講演を終えました。

第2部の講演は、大阪 ECO 動物海洋専門学校の小畑敬済非常勤講師による、「なぜ『カメ』と言えばみどり色なのか」です。参加者は18名でした。先生の自己紹介から始まり、カメのことをどのくらい知っているか参加者に聞きながら、それをホワイトボードに書いていくスタイルで講演は進みました。



アカミミガメ別名ミドリガメ、クサガメやイシガメ、それにカブトニオイガメやホシガメなどの名前も挙がりました。そこで日本にいる身近なカメの見分け方の話となり、外来生物の話へと繋がりました。



いよいよカメとの触れあいの時間です。ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシippアカミミガメの3種類を数匹用意して頂き、それぞれの特徴を手元で確認して見てもらいました。やはり実物を使っ
ての講演は参加者の反応もよく、ステージ前に集まって大変盛り上がりました。



これはおさらいをしているところです。それぞれの特徴や見分け方を参加者と確認していきます。カメが暴れない持ち方があるとのことで、下の写真にあるように後脚の付け根に中指と親指を
入れ込んでガシッと掴みます。



小畑講師は、「カメの見分け方が分かると、水辺を覗くのが楽しくなる。参加者の皆さんも、近所の水辺を覗いてどんなカメがいるか、外来種、在来種はどれくらいいるかなどを自由研究にやってみては？」とおっしゃられ、講演を締めくくられました。

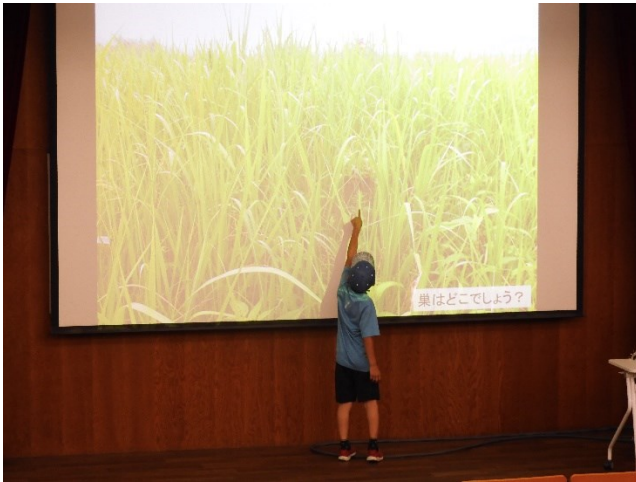
第3部の講演は、全国カヤネズミネットワークの畠佐代子代表による、「日本最小のネズミ『カヤネズミ』を守るには」です。参加者は10名でした。



カヤネズミの生態についての一連の説明の後、ステージ上に設置しているファイバースコープでカヤネズミの巣を覗き込みました。イネ科の「オギ」という植物を器用に織り込んだ巣は独特の形状をしていて、参加者たちは静かに画面に見入っていました。その後、カヤネズミの食草である「エノコログサ」の実物を会場内で順番に回して、参加者に触感を感じてもらっていました。



この講座も、会場参加型の方法で進行しました。カヤネズミクイズ！では、畠講師の質問に子どもたちが元気に回答していました。ステージで指をさしている下の写真は、巣がどこにあるかな？と尋ねた時のものです。



カヤネズミは草地生態系を代表する生きもので、体の特徴も、そこに棲みやすい形状へと進化していますが、年々個体数は減少しています。河川敷の草刈りにしても、こういった生きものを守っていくための管理方法を考えながら行うことが必要となります。

更に、こういったイベントの参加者による周囲への波及効果も重要なものとなってきます。畠講師は、保全には皆さんのような方々が周りにお話して広げていただくことも必要と仰いました。

11日の講座について回収した中学生以下対象のアンケートでは、「イベントを受けて生きものを大切にしようと思いましたか？」の問いかけに対し、全員が「大切にしたい」と回答、また、「今回のような行事があったときにまた参加したいですか？」の問いかけに対しても、全員が「参加したい」と回答していました。

高校生以上対象のアンケートでは、環境事業協会運営の講座・イベントへの参加は初めてという方が78.5%もいらっしゃいましたが、イベントの総合的な満足度では全員が大変満足・満足との回答で、1日目は大変満足して頂けた3連続講座となりました。

2日目の第1部の講演は、金魚研究家の根来央さんによる、「大公開！金魚とおおさかの『ひみつ』」です。参加者は16名でした。



まず、金魚の色や形、魅力についての話から始まり、500年くらい前の日本への金魚の到来から、日本固有の品種が育てられた歴史や飼育書についてなど、多岐にわたり説明がありました。根来講師は、金魚や骨格標本の実物を沢山会場に持ってきておられて、参加者に実物を見せながら説明してくださいました。



下の写真は、白い洗面器に1匹ずつ入った金魚たち。それを透明の金魚鉢に移し替えて説明している様子です。

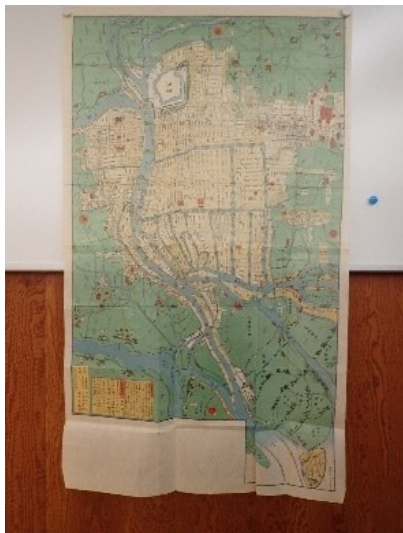


下の写真は、金魚養玩草(きんぎょそだてぐさ)の話がされている様子です。所謂飼育書で、大

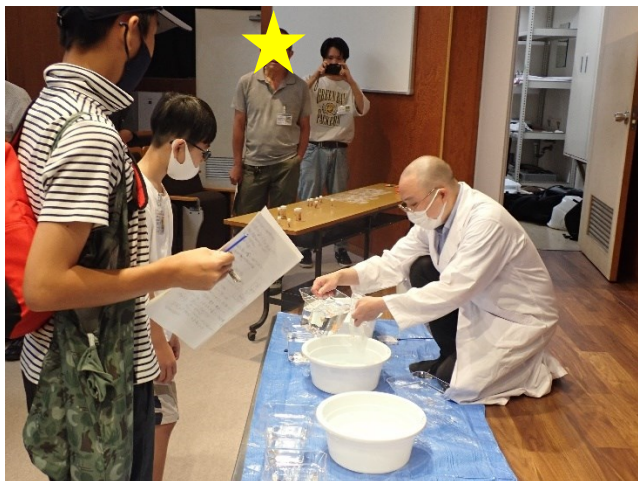
阪・堺の湊に金魚が初上陸してから堺の安達善之氏により執筆され、ベストセラーになったとのことでした。今まで多くの金魚飼育書が書かれてきましたが、そのルーツは大阪にあったのです。



下の写真は、江戸時代の貴重な本物の資料。本物はやはり参加者の目を惹きますね。



下の写真は、展示していた金魚を根来講師のご厚意で参加者に譲渡している様子です。貰った皆さんは嬉しそうに持ち帰って行きました。



地元の郷土学習を、実物も見ながら学習できる素晴らしい講演となりました。

第2部の講演は、大阪自然環境保全協会の木村進事務局長による、「タンポポなど身近な植物のふしぎを探ろう」です。参加者は10名でした。



タンポポクイズで会場内に問いかけをしながら、タンポポのことを色々知っていくという流れで講演は進みました。タンポポの花びらの枚数に関する質問の時、①1枚 ②5枚 ③約50枚 ④約200枚 ⑤約1000枚という選択肢で、正解は②の5枚であるという木村講師の言葉に、会場からは驚きの声が沸き上がりました。



また、実物も持ってこられ、参加者に見せながら説明されました。タンポポのお話は外来種の問題へと繋がり、それぞれの特徴をお伝えしながら啓発されていました。

最後はタンポポの種のしおりづくりです。準備された種にラミネート加工を施して作成していきま
した。

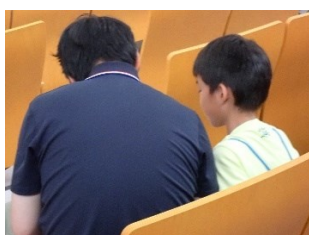


1975年に大阪でタンポポの種類を調べることで、身近な環境に目を向けるとともに、その環境の現状を知ろうと呼びかけて以来、全国各地で環境について知ろうとする市民参加の「タンポポ調査」が続けられてきました。木村講師は、中心となって活動されている一人です。毎年開催されているとのことなので、機会があったら皆さんも是非参加してみてください。

さて、2日間の講演のトリを飾る**第3部**の講演は、バードコンサルタントの大西敏一さんによる、「スゴい！エモい！鳥たちのおどろきの能力とカラダのふしぎ」です。参加者は19名でした。鳥とは、「観察がしやすい一番身近な野生生物」であり、『『羽毛』と『翼』と『^{くちばし}嘴』を持った、二本足の生き物』という説明から始まりました。



大西講師の発表するスライドの中のヒントから、配布したワークシート内に書かれてあるクイズを親子で考えて貰うという流れで講演は進みました。クイズには鳥についての驚きのトリビアが15問設定されていて、例えば「鳥のカラダの特徴を応用して作られたものは？（正解複数）①新幹線②ドローン③エアコン室外機」という質問には、バイオミメティクス※により選択肢全てが当てはまるということで大西講師のスライドでそれぞれ写真付きで具体的に発表されていました。子どものみならず、大人も勉強になる内容に、皆さんは夢中で話に聞き入っていました。



※1 バイオミメティクス(生物模倣)は、生物の構造や機能、生産プロセスなどから着想を得て、新しい技術の開発やものづくりに活かそうとする科学技術



できるだけ実物を使って進めていただいた全講演ですが、野鳥はなかなか会場に持ちこめなため、大西講師には様々な鳥の羽の実物をご用意いただきました。参加者の皆さんにはなかなか体験になったかと思います。



大西講師は書籍を何冊も執筆しておられるとので、参加者が購入した書籍にサインをして貰い、一緒に記念撮影をするという一幕もありました。左の写真はその時の様子です。

12日の講座について回収した中学生以下対象のアンケートでは、「イベントを受けていきものを大切にしようと思いましたが？」の問いかけに対し、一人の「分からない」を除き、その他全員が「大切にしたい」と回答、また、「今回のような行事があったときにまた参加したいですか？」の問いかけに対しても同様に「参加したい」との回答を頂きました。

高校生以上対象のアンケートでは、環境事業協会運営の講座・イベントへの参加が初めてという方が67%でしたが、イベントの総合的な満足度では全員が大変満足・満足という結果でした。

1日目に引き続き2日目も大変満足して頂いた3連続講座となりました。

2日間全ての講座に出席して下さった方もいらっしゃいました。ありがとうございました。6ジャンルの講座の中から、自由に選んで参加してもらい夏休みの宿題の手助けとになればと企画した連続講座は、大好評のうちに無事終了しました。